

3 月 23 日は世界気象デー －今年のテーマは、「天気、気候、そして私たちをとりまく空気」－

世界気象デーとは

世界気象機関（WMO）は、1950 年（昭和 25 年）3 月 23 日に世界気象機関条約が発効したことを記念してこの日を世界気象デーとし、毎年キャンペーンテーマを設けて気象知識の普及や国際的な気象業務への理解の促進に努めています。今年のキャンペーンテーマは、「天気、気候、そして私たちをとりまく空気」です。

世界気象機関と私たちをとりまく空気

私たちをとりまく空気には大気汚染物質や温室効果ガスが含まれており、天気の影響を大きく受けて、大気汚染や黄砂、地球温暖化などをもたらして、私たちの生活に影響を与えています。また、これらの物質等は、逆に、天気や気候に大きな影響を与えていることが明らかになってきています。

WMO 及び加盟する各国気象機関は、その技術を活かし、日々の気象警報や天気予報のみならず、気候や大気環境の監視・予測に貢献しています。WMO は、大気環境の監視・予測や研究に必要な技術やデータの国際的な共有の推進、開発途上国のための研修等の実施にあたっています。また、気象庁では、WMO のこれらの分野の活動に貢献するほか、環境対策及び国民の安全・安心を確保するための基礎情報として、大気汚染気象予報、黄砂、温室効果ガスについての情報を気象情報やホームページ等を通じて提供しています。

第 3 回世界気候会議

WMO は、気候に関する科学的な情報の活用を促進することにより、気候リスク管理や気候への適応への貢献を図ることを目的として、平成 21 年 8 月 31 日から 9 月 4 日にかけて、スイス・ジュネーブにおいて、「政策決定のための気候予測」をテーマに第 3 回世界気候会議を開催します。気象庁は、この会議に準備段階から積極的に参画するほか、その準備の一環として、アジア・太平洋域の気象機関や気候情報利用者等を東京に招へいし、アジア地域における気候情報活用の促進策を話し合うための「気候情報に関する東京会議」を 7 月に開催する予定です。

世界気象機関（WMO）の概要

設立目的	気象業務に関する国際的な調整・標準化・改善や、気象情報の交換促進
設立	1950 年 3 月 23 日
事務局所在地	スイス・ジュネーブ
加盟構成員	182 か国・6 領域（我が国は 1953 年（昭和 28 年）に加盟）
ホームページ	http://www.wmo.int/

問い合わせ先： 総務部企画課国際室
電話： 03-3212-8341（内線 2267）

(1) 第1回世界気候会議 (1979年、ジュネーブ)

- 各国に対して人類の安寧を妨げると思われる人為的な気候変化の予見とその防止策の早急な実施を求め、世界気象機関内に気候関係部局を設置。これが気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の設置につながった。

(2) 第2回世界気候会議 (1990年、ジュネーブ)

- 気候変動枠組条約の交渉作業にあたっての共通の基本認識を提供し、条約交渉の開始につながった。また、気候監視のための枠組を設けた (GCOS、全球気候観測システム)。